

# 地域医療を守り育てる住民活動全国シンポジウム報告



## どうする我がまちの地域医療！？ 今こそ“わ”を活かす時！

令和7年9月13日（土）に「地域医療を守り育てる住民活動全国シンポジウム2025」を東京都千代田区の東京グリーンパレスにて開催し、全国各地から35名の方にご参加いただきました。2つの地域の取り組み事例の講演後、住民・行政・医療関係者が一緒になって2040年を見据えた自分たちなりの地域医療の姿を考えていただくグループワークを行いました。

### 1. 開会挨拶・主催者挨拶

世話人を代表し、小谷和彦氏（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門教授）から開会の挨拶をいただきました。続いて、主催者を代表し、佐藤清美事務局長が挨拶をいたしました。



取り組みが求められるため、今回のシンポジウムは「地域医療の未来」をテーマとしたとの説明がありました。



### 2. 趣旨説明

趣旨説明では、藤本幸男氏（青森県良医育成支援特別推進員）に本シンポジウムの経緯、目的についてご説明いただきました。また、新たな地域医療構想の目標となっている2040年を見据えると、地域ごとの課題や、求められる医療提供体制の在り方が異なり、地域ごとに将来を見据えた取

### 3. 基調講演

基調講演は「地域医療の取り組み事例について」と題して、2つの地域の取り組み事例についてご講演いただきました。1つ目は「青森県の取り組み」について、趣旨説明に引き続き、藤本幸男氏に、青森県の概況、地域医療の現状、現在の地域



医療への取り組み、これからの地域医療への取り組みについてご講演いただきました。2つ目は「愛知県海部地域の取り組み」について、安藤公一氏（海部地域医療サポーターの会）に、津島市役所職員時代に取り組まれた内容を中心に、海部地域で現在も行われている取り組みについてご講演いただきました。



#### 4. グループワーク

参加者を6グループ（1グループ6～7名）に分け、あらかじめ指名させていただいたファシリテーターがまとめ役となり、グループワークを行いました。

最初に福田政憲氏（宮崎県北の地域医療を守る会事務局長）と久保田健太郎氏（千葉市職員）より、グループワークの進め方について説明がありました。午前中は、各グループで一人ずつ自分の住んでいる地域の「人口規模について」「医療機関について」「病院の再編について」「在宅医療について」を発表し、それぞれの地域の2025年の現状を共有しました。午後からは、出そろった地域の現状を類似グループで分け、グループ分けした地域別に2040年の地域医療の在り方を考えていきました。未来のことを想像し、それに向けてみんながどのように取り組んでいけばよいか、どんな活動をしていけばよいか等を考える作業は難しかったかと思いますが、どのグループも活発に議論が行われていました。



#### 5. グループワーク発表

各グループでまとめた内容をグループの代表者に順番に発表していただきました。どのグループにおいても、「わが町の2025年（現状）」と「みんなの2040年（未来）」がまとめられていました。オンライン診療や在宅医療の理解を広げる、病院ボランティア等で病院と住民の関わりを作る、住民活動は無理をせずに楽しく続けていく等、たくさん意見が出されました。



#### 6. 閉会挨拶

矢壁敏宏氏（NPO 法人まちづくり工房うんなん代表）から閉会の挨拶をいただいた後、参加者全員で写真撮影（冒頭の写真）を行い終了となりました。

総合司会は小松憲一氏（茨城県西部メディカルセンター内科部長）と藤原真治氏（美馬市国民健康保険木屋平診療所長）に務めていただきました。

